

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪成蹊短期大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
	生活デザイン学科	夜・通信	20		48	68	7	
	調理・製菓学科	夜・通信			98	118	7	
	栄養学科	夜・通信			38	58	7	
	幼児教育学科	夜・通信			79	99	7	
	観光学科	夜・通信			58	78	7	
	グローバルコミュニケーション学科	夜・通信			36	56	7	
	経営会計学科	夜・通信			48	68	7	
(備考) 上記の他に「教職課程に係る科目」7科目11単位、「司書課程に係る科目」16科目25単位は、実務経験のある教員による授業科目。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大阪成蹊短期大学ホームページ「シラバス」内で公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/department/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪成蹊短期大学
設置者名	学校法人大阪成蹊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大阪成蹊学園 HP 内の「情報公開」「寄附行為等」「役員関連」で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/kifu/index.php
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	信用保証機関 代表取締役社長	H30. 11. 1 ~ R4. 10. 31	就職・募集
常勤	保険代理店・不動産取 扱業 取締役社長	R3. 6. 18 ~ R7. 6. 17	経営計画 広報・人事
常勤	銀行 常務監査役	R2. 6. 30 ~ R6. 6. 29	組織運営
常勤	銀行 常務執行役員	R3. 4. 24 ~ R7. 4. 23	経営計画・IR
非常勤	弁護士	R4. 4. 1 ~ R8. 3. 31	法務
非常勤	税理士	R4. 4. 1 ~ R8. 3. 31	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪成蹊短期大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。</p> <p>令和元(2019)年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和2(2020)年度では、90分授業から100分授業へと移行し、すべてのシラバスに対し、授業計画を改めて見直した。また、チェック機能を更に強化するため、シラバス作成の手引き最終ページにセルフチェックリストを追加した。令和3(2021)年度では、個別シラバスに関する優秀学生の意見を聴取し、学生にとって分かりやすいシラバスの特徴をまとめFD研修会で説明した。また、シラバスチェックの工程を見直し、クラウドを導入して点検状況の確認の効率性を高めた。</p> <p>学生と担当教員の間で、当該科目における学習イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成できている。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとのシラバスチェック体制を充実して、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、シラバスの質の向上を図っている。</p> <p><シラバスの作成・公表時期></p> <p>(1) 作成時期 12月～2月</p> <p>(2) 公表時期 3月</p> <p><シラバスの作成過程></p> <p>(1) 授業担当教員はブラウザ上から学生ポータルシステムに教員アカウントでログインし、シラバス入力を行う。(～1月)</p> <p>(2) シラバスを印刷し、1次チェック担当教員へ配付。チェックリストに基づき1次チェックを実施する。(2月～)</p> <p>(3) 授業担当教員は1次チェック結果を受け取り、修正を行う。(～2月21日)</p> <p>(4) 2次チェック担当教員がブラウザ上で2次チェックを実施する。(～2月25日)</p> <p><シラバス記載項目></p> <p>①授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標 ④学外連携学修 ⑤授業方法(アクティブラーニングを促す方法について) ⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価(評価方法・割合・基準等) ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画(タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間)</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大阪成蹊短期大学ホームページ「シラバス」内で公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/department/syllabus/ 学生は学生ポータルシステムでも閲覧可。 https://portal.osaka-seikei.ac.jp/web_tan/</p>																											
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																												
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各教員は担当授業の学習到達度を査定する際には、シラバスに記載の「成績評価方法」「割合」「評価の基準」等に基づいて評価を行う。また、特にレポート、作品・ポートフォリオ、プレゼンテーション、卒業論文などによる質的評価を行う科目では、適宜ルーブリックを開発・活用している。また、成績評価ガイドラインを定め、成績評価にあたっての考え方や、各評語に関する共通理解を図り、公正で客観的な成績評価に努めている。</p>																												
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>																												
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、学生の学習成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するためにGPA制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA制度の目的やGPAの算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配布される成績表に単位取得数とともにGPAを表記して、フィードバックしている。 成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに、全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ルーブリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。 成績の評語、点数、グレードポイント(GP)及び評価基準は、次表のとおり定めている。</p>																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>成績の評語</th> <th>点数</th> <th>GP</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>秀</td> <td>100点～90点</td> <td>4</td> <td>基準を大きく超えて優秀である</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>89点～80点</td> <td>3</td> <td>基準を超えて優秀である</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>79点～70点</td> <td>2</td> <td>望ましい基準に達している</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>69点～60点</td> <td>1</td> <td>単位を認める最低限の基準には達している</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>不可</td> <td>59点以下</td> <td>0</td> <td>基準を大きく下回る</td> </tr> </tbody> </table>		区分	成績の評語	点数	GP	評価基準	合格	秀	100点～90点	4	基準を大きく超えて優秀である	優	89点～80点	3	基準を超えて優秀である	良	79点～70点	2	望ましい基準に達している	可	69点～60点	1	単位を認める最低限の基準には達している	不合格	不可	59点以下	0	基準を大きく下回る
区分	成績の評語	点数	GP	評価基準																								
合格	秀	100点～90点	4	基準を大きく超えて優秀である																								
	優	89点～80点	3	基準を超えて優秀である																								
	良	79点～70点	2	望ましい基準に達している																								
	可	69点～60点	1	単位を認める最低限の基準には達している																								
不合格	不可	59点以下	0	基準を大きく下回る																								
<p>GPAは、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。 $GPA = \frac{\text{(当該科目の単位数} \times \text{該当学期の履修科目のGP) の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$</p>																												
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大阪成蹊短期大学ホームページ内でGPA制度に関する規程を記載した履修の手引きを公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/students/pdf/guide_tandai.pdf 【履修の手引き】GPA制度に関する規程を履修の手引きに掲載し、学生に配付し公表している。</p>																											

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

短期大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっているか」を明確に示している。また、短期大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学科別の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第 32 条において「共通科目 12 単位以上、学科科目（自由科目 6 単位を含む）50 単位以上合計 62 単位以上を修得しなければならない」と定めている。2 年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

概要

2 年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものと認め、短期大学士の学位を授与します。短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 各専門領域における確かな知識・技能、職業理解を身につけている。
3. 各専門領域における知識・技能を実践の中で発揮することができる。

社会で実践する力

4. 専門性を活かし、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
5. 豊かな発想力によって、課題の解決に向けた計画を立てることができる。（企画・立案）
6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
7. 困難な課題にも挑み、解決に向け行動することができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者との関係のなかで、学びあうためのコミュニケーション能力を有している。
9. 目的の遂行に向けて他者と協力し、取り組むことができる。

忠恕の心

10. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>履修の手引きを配付し公表している。 大阪成蹊短期大学ホームページ「教育研究上の目的と3つのポリシー」及び各「学科紹介」内で公表。 短期大学全体： https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/policy/ 生活デザイン学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/ 調理・製菓学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/ 栄養学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/ 幼児教育学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/ 観光学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/ グローバルコミュニケーション学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/ 経営会計学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/</p>
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪成蹊短期大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
財産目録	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
事業報告書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和4年度事業計画書 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://osaka-seikei.jp/disclosure/
中長期計画(名称:長期経営計画(2020-2029) 対象年度:令和2年度~令和11年度)
公表方法:学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大阪成蹊短期大学ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大阪成蹊短期大学ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活デザイン学科
教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等） http://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/
(概要) 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等） http://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/
(概要) 2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。
確かな専門性 1. 日常の衣生活における衣服管理の基本的な知識・技能を身につけている。 2. 和、洋の衣服制作における基本的な知識・技能を身につけている。 3. ファッションビジネスにおける基本的な知識を身につけている。 4. 家庭生活において必要となる家政学の基本的な知識を身につけている。 また、各コースで身につける知識と技能は以下のとおりです。 ・アパレル・スタイリストコース アパレル・ファッション分野の根幹である衣服制作およびデザインの専門的素養を身につけ、周辺の関連ファッション領域にも目を向け、トータルファッションを理解する。 ・ファッションコーディネートコース ファッション業界の全般的な概略を幅広く学び、将来の目的に応じて制作やデザインの専門技術を修得し、トータルファッションを理解する。
社会で実践する力 5. 独立分業制が中心のアパレル・ファッション業界のなかで、自己が就く職の中から業界の課題を発見し、解決と業界発展に向けて取り組むことができる。 6. アパレル・スタイリストコースにおいては専門技術のスキルアップを目指し、ファッションコーディネートコースにおいては、ファッションビジネスに対して常に興味と向上心を持ち、何れも継続して自己研鑽を図ることができる。
協働できる素養 7. アパレル・ファッション業界が分野ごとに分業制によって成り立ち、それぞれの分野の相互理解の上に同業界が成り立っていることへの理解を持ち、他者と協働して取り組むことができる。

8. 自身の置かれた立場と相手の立場を理解して互いに尊重することができる。

忠恕の心

9. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学科では、学びの専門性をより深められるよう、アパレル・スタリストコース、ファッションコーディネートコースの2コースを設定しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目でアクティブラーニング授業を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目から編成しています。

「学科科目」では、衣服やファッション理解の基礎などコースの別なく知識・技能を修得する必修科目のほか、アパレル・スタイリストコースでは、制作力やデザイン力を高めるための科目、ファッションコーディネートコースでは、ファッションビジネスを中心としてファッション周辺領域をも含めて、幅広くファッションを学ぶための科目など、コースの専門性に応じて履修する選択科目があります。また、コースの別なく「理論と実践の融合」と「体験による職業意識の向上と定着」を重視しており、実習や演習をとおして、各専門分野における専門知識・技能を磨き、実践力を高められるように配当年次や授業科目を設定しています。

本学科は衣料管理士養成校の認定を受けているので、上記の必修科目および選択科目の中から必要な科目の単位取得に加え、衣料管理士課程の単位を取得することで、2級衣料管理士の資格を取得できます。司書資格は、必修科目と選択科目とは別に、同免許取得に必要な特定の単位を取得することで取得できます。そのほか、様々な資格取得や検定合格にも積極的に挑戦できるような教育課程とサポート体制を整えています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、全ての授業において「アクティブラーニング」を推進しています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開し、基礎となる知識や考え方を身につけられるようにしています。「演習」「実験・実習」では、講義で学んだことの実践を図り、実践を通して専門内容の修得を図ります。「演習」は、コンピュータを用いたデザイン実践で、デザインに必要なCADや基本ソフトの取扱いを修得します。「実習」は、衣服制作の過程で必要となる力として、デザインから制作までさまざまな技能を修得していきます。「実験」は衣料品の取扱いについて、科学的に検証するための実験を行い、主として衣料管理士資格取得のための必須科目としてJIS規格に基づいた専門知識・技能を修得します。このように、学びの目的に応じて適切な授業形式とすることで、学修効果を高めています。また、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、学びの専門性と密接に関連する職業現場で実践力を高めていく授業などを展開しています。学修の成果

を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

また、2回生の最後には、卒業制作展（ファッションショー）に向けて、企画・設計から制作、展示、そして販売に至るファッション業界全体の一連の流れのなかで2年間の学びを振り返るとともに、2年間の学びの集大成として、学修成果を発揮することのできる科目を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/>

（概要）

教育目的

本学科では、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

（1）大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。

（2）衣服に関心を持ち、常に挑戦しながらスキルアップをめざそうという意欲を持っている。

2. 知識・技能

（3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

（4）特定の興味分野に縛られず、衣服に関わる経験に基づいた知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

（5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。

（6）多様なアパレル・ファッションについて、自分なりの考えを持つことができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

（7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 調理・製菓学科

教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/>

(概要)

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、食の専門領域において理解を深めながら豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/>

(概要)

2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するために自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 各コース（調理、製菓、フードコーディネート）の専門領域における基礎知識、専門知識が身につけている。
2. 各コース（調理、製菓、フードコーディネート）の専門領域における基礎技術・技能を身につけ、実践し活用することができる。

また、各コースで身に付ける知識と技能は以下のとおりです。

・調理コース

調理師に必要な料理、菓子に関連する衛生、食品、栄養、理論などを幅広く学び、日本料理・西洋料理・中国料理やお菓子を作る専門技術と融合させることで、適切かつ発展的な作業を行うことができる。

・製菓コース

パティシエに必要な菓子に関連する衛生、食品、栄養、理論などを幅広く学び、和菓子、洋菓子、パンを作る専門技術と融合させることで、適切かつ発展的な作業を行うことができる。

・フードコーディネートコース

フードコーディネーターに必要な食全般の衛生、食品、栄養、理論、ホスピタリティなどを幅広く学び、調理技術や製菓技術及びメニュー開発、接客サービス、食空間の演出などの技能と融合させることで、適切かつ発展的な作業を行うことができる。

社会で実践する力

3. 段階に応じて様々な課題に対応し、積極的に行動することで問題を解決していくことができる。
4. 技術の修得に向けて反復練習を継続的に行うことができる。

協働できる素養

5. 地域社会や職場で協力して仕事をするためのコミュニケーション能力と協調性が身につけている。
6. チームで働く環境において、自ら考えて行動する姿勢が身につけている。
7. 他人の意見を受け止め、尊重することができる。

忠恕の心

8. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学科では、学びの専門性をより深められるよう、調理コース、製菓コース、フードコーディネーターコースの3コースを設定しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を段階的に展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目で「アクティブラーニング」を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとのシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。さらに、学修成果の発表の機会として「卒業作品展」を行い、地域社会に公開しています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目から編成しています。

「学科科目」では、コースの専門性に応じて、講義や演習、実習をバランスよく配置し、体系的な教育課程の編成を行っています。調理師、パティシエ、フードコーディネーターと、めざす進路にあわせてコースを選択し、確かな専門性を身につけられるよう教育課程を編成しています。また、「理論と実践の融合」と「体験による職業意識の向上と定着」を重視しており、実習や演習をとおして、技能を磨き、実践力を高められるように配当年次や授業科目を設定しています。学外での調理・製菓実習やレストランサービス実習など、職業現場で実践力を高め、職業理解を深める授業も充実しています。2 年生後期には学びの集大成として卒業作品展を実施します。コースの専門性に沿った作品の構成を考案し、2年間の学びを振り返るとともに、学修成果を発揮することのできる機会を設けています。そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、全ての授業において「アクティブラーニング」を展開しています。「講義」では、教員のみが言葉を発する一方向的な授業とならないよう、双方向授業を実施しています。学生が自分の考えを話す機会、学生同士で意見を交換する機会等を十分に確保し、主体的な学修が行えるような授業を行っています。「演習」「実験・実習」では、作業をグループや個人に分けて行い、実現場での仕事を疑似的に体験することで、協働する力や実践力を養います。また、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、学びの専門性と密接に関連する職業現場で実践力を高めていく授業などを展開しています。また、学内コンテストや作品展展示会なども充実しており、自分の力を確かめる機会を設けています。学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。さらに、授業時間外での自己練習もサポートできるようにしています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修

成果を測り、評価します。

また、2年間の学びの集大成として、卒業作品展を開催し、作品による学修成果を発表する機会を設け、取り組み課題を含めた総合的な評価を行っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/>

（概要）

教育目的

本学科では、食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる「人間力」を備えた人材を育成します。「調理コース」では、調理に関する幅広い知識と高い技術を持ち、料理を通じて人に幸せを届けることのできる調理師やフードスペシャリストを育成します。また、「製菓コース」では、製菓に関する幅広い知識と高い技術を持ち、製菓を通じて人に幸せを届けることのできるパティシエ等の製菓のプロフェッショナルを育成します。「フードコーディネーターコース」では、おもてなしの心（ホスピタリティ）を持ち、調理や菓子、メニュー開発、接客サービス、食空間の演出など「食」に関する幅広い知識と技術を身につけたプロフェッショナルを育成します。

以上の各コースの学びをとおして、フードサービス業界で活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

（1）大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。

（2）食分野に興味・関心があり、熱意と向上心を持って取り組み、社会に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

（3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

（4）食に関わる経験に基づいた知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

（5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。

（6）食を巡る様々な人々や営みについて、自分なりの考えを持つことができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

（7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/>

（概要）

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、栄養士や栄養教諭などに求められる知識（栄養学・食品学・解剖生理学などの専門知識）と技能（調理技術・伝達力・食品成分の分析などの専門技能）を修得し、栄養の領域において人々の健康で快適な食生活をサポートできる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/>

（概要）

2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 食により人々の健康をサポートする専門家に必要な知識と技能を修得している。
2. 専門の知識と技能を活かした職業観を身につけている。

社会で実践する力

3. 専門知識と技能を実践に活かし自ら課題解決を行うための思考力・判断力を身につけている。
4. 課題解決のために、探求心を持って、積極的に行動できる。
5. 専門職に必要な知識と技能を磨き続ける向上心を持ち、次のステップをめざすことができる。

協働できる素養

6. 周りの人と協力してものを作り上げることができる。
7. 集団の中で責任感を持って、自分の役割を果たすことができる。

忠恕の心

8. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学科卒業生には栄養士や栄養教諭など専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実験・実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目で「アクティブラーニング」を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目から編成しています。

「学科科目」では、講義や演習、実習をバランスよく配置し、体系的な教育課程の編成を行っています。栄養士や栄養教諭など、人の栄養を支える専門職業人に求められる確かな専門性を身につけられるよう教育課程を編成しています。栄養の専門家に求められる基

本的な知識・技能を修得する科目群から、身につけた知識と技能を、実践をとおして確かな力にする科目群、さらに栄養に関する専門知識を人に伝えられるよう、実際の給食現場での実習など応用力を養う科目群を配置しています。単なる栄養に関する知識の修得に留まることなく、コンピュータを使った情報収集や媒体作成、栄養価計算といった実務的な能力を身につけられるようにします。また、「理論と実践の融合」と「体験による職業意識の向上と定着」を重視しており、実習や演習をとおして、技能を磨き、実践力を高められるように配当年次や授業科目を設定しています。学外での給食管理校外実習など、職業現場で実践力を高め、職業理解を深める授業も充実しています。2回生の最後には、栄養士実力認定試験での知識の定着を計るとともに、卒業作品展に向けて課題献立の作成から試作、検討を重ね、2年間の学びの集大成として卒業作品展を開催し、学修成果を発揮することのできる科目を設けています。そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、全ての授業において「アクティブラーニング」を展開しています。「講義」では、教員のみが言葉を発す、一方向的な授業とならないよう、双方向のやり取りを重視した授業を実施しています。学生が自分の考えを話す機会、学生同士で意見を交換する機会等を十分に確保し、主体的な学修が行えるよう授業を実施しています。「演習」「実験・実習」では、グループで課題に取り組み、役割を分担し、協力して作業を進めることで、協働する力や実践力を養います。また、「給食管理校外実習」など学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業や学びの専門性と密接に関連する職業現場で実践力を高めていく授業を展開しています。「栄養基礎演習」や「栄養総合演習」など、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

また、本学科では、2年間の学びの集大成として卒業作品展を開催し、学修成果を発揮する、自分自身の成長を実感することのできる科目を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/>

（概要）

教育目的

本学科では、栄養士や栄養教諭などに求められる知識（栄養学・食品学・解剖生理学などの専門知識）と技能（調理技術・伝達力・食品成分の分析などの専門技能）を修得し、栄養の領域において人々の健康で快適な食生活をサポートできる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

<p>(1) 大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。</p> <p>(2) 食や健康に関心を持ち、栄養の専門家になりたいという意欲を持っている。</p> <p>2. 知識・技能</p> <p>(3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。</p> <p>(4) 食や健康に関わる経験に基づいた知識や技能を身につけている。</p> <p>3. 思考・判断・表現</p> <p>(5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。</p> <p>(6) 食や健康を巡る様々な人々や営みについて、自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>(7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。</p>

<p>学部等名 幼児教育学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/</p>
<p>(概要)</p> <p>大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、教育・保育・福祉の現場における専門職として、未来を創る子どもたちの育ちや保護者による子育て、社会全体による子育てを支え、援助するための確かな専門知識・技能、実践力ならびに専門職倫理を修得し、周りの人と協働しながら自己の役割を果たすことのできる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/</p>
<p>(概要)</p> <p>概要</p> <p>2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。</p> <p>確かな専門性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育・福祉専門職としての職務を遂行することのできる専門知識・技能および基本的な実践力を身につけている。 2. 教育・保育・福祉専門職としての職務内容や責任と倫理を理解している。 3. 人間形成力をもつ児童文化財に関する幅広い教養や探究心をもっている。 4. 子どもの生命、発育・発達、人間形成や子育てのあり方に影響を及ぼす環境への幅広い関心をもっている。 <p>社会で実践する力</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 実践を通して、自己の課題を明らかにするとともに客観的な視点を養い、自らの人間性や専門性を高めるための努力や課題解決に向けた行動をすることができる。 6. 他者からの助言や指導を素直に受け止め、自己の成長につなげていこうとする意欲や

行動力をもっている。

協働できる素養

7. 他者の意見やアドバイスに耳を傾ける姿勢をもち、独善的にならず、協調性や柔軟性をもって、課題解決に向けて周りの人と協力することができる。
8. 集団やチームの中で、率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割を責任をもって果たすことができる。

忠恕の心

9. 誠実、公平、受容的態度で人と接し、他者の意見や主張を丁寧に聴き、他者の立場に立って物事を考えることができる。
10. 他者の人格やプライバシーを尊重しつつ、他者理解を深めるための積極的な関わりができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/>

（概要）

概要

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目でアクティブラーニング授業を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びへの導入教育（初年次教育）科目ならびに本学科で取得する国家資格を活かしたキャリア形成について考える科目のほか、21世紀のグローバルな知識基盤社会において、とくに教育・保育・福祉の現場で活躍できる専門職業人として求められる語学力、幅広い教養、健やかな心身、人権意識を養うための科目群を配置しています。

「学科科目」では、教育・保育・福祉の現場で専門職として活躍することのできる力を養成し、国家資格（幼稚園教諭二種免許ならびに保育士資格）や各種資格（社会福祉主事任用資格、こども音楽療育士資格）を取得することが可能な教育課程を編成しています。教育・保育・福祉専門職として求められる専門知識・技能、実践力や専門職倫理を身につけ、また、学修した専門知識・技能を活用しながら、自己の関心領域を総合的・実践的・協働的に追究し、生涯学び続ける姿勢や周りの人と協働できる素養を高めます。また、「理論と実践の融合」と「体験による職業意識の向上と定着」を重視しており、教育・保育・福祉の現場での実習や演習をとおして、各専門分野における専門知識・技能を磨き、実践力を高められるように配当年次や授業科目を設定しています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、全ての授業において「アクティブラーニング」を展開しています。教員のみが言葉を発す、一方向的な授業とならないよう、双方向のやり取りを重視した授業を実施しています。教室内でのグループワーク、プレゼンテーション、パフォーマンス、ロールプレイ、ディスカッション、ディベート等により、学生と教員ならびに学生同士の間で双方向的な学びが展開できる授業を行っています。また、特に実習では、教育・保育・福祉現場での基礎的实践を通して、子どもたちとの関わりの中で、自己の課題を発見し、さらに保育者としての資質を高める

ための気づきや学びを深めていきます。実習後には、課題を解決するための方法や理論を学び、さらなる実践力を養います。学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

教育実習、保育実習では、現場の指導教員による評価も踏まえながら、教育・保育・福祉の総合的な実践力を評価できるようにしています。また、2年間の学びの集大成として、卒業作品、卒業論文（レポート）、卒業発表で、学修成果を発揮することができるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/>

（概要）

教育目的

本学科では、教育・保育・福祉の現場における専門職として、未来を創る子どもたちの育ちや保護者による子育て、社会全体による子育てを支え、援助するための確かな専門知識・技能、実践力ならびに専門職倫理を修得し、周りの人と協働しながら自己の役割を果たすことのできる人間力を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

(1) 大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。

(2) 子どもの発育・発達、人間形成に実践的にかかわることに関心を持ち、将来、教育・保育・福祉分野の専門職として社会に貢献しようという意欲を持っている。

2. 知識・技能

(3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

(4) 子どもの教育・保育・福祉に活かすことのできる経験（授業やクラブ、ボランティア活動など）に基づいた知識や技能（音楽・造形・身体・言葉などの表現）の基礎を身につけている。

3. 思考・判断・表現

(5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。

(6) 子どもに関わる問題について、自分なりの考えを持つことができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 観光学科

教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/>

<p>(概要)</p> <p>大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、観光ビジネスを理解し、21世紀の観光・ツーリズムの推進を担う、ホスピタリティ・サービス精神、コミュニケーション能力、実務力を持ち、「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/</p>
<p>(概要)</p> <p>2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。</p> <p>確かな専門性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光学の専門知識（歴史、文化、社会、経済、経営等）と宿泊、旅行、運輸、接客等に関する実務能力や情報処理の専門技能を身につけている。 2. 観光関連及び一般企業における実務能力や顧客に対するホスピタリティ、サービスを理解し、心のこもった対応力を身につけている。 3. 産学連携・地域連携などに参加し、地域経済の活性化や課題解決に取り組む力を身につけている。 4. 従来のマスメディア及びインターネット関連のメディアに関与し、それらを活用できる。 5. 英語の専門知識や実用英会話の能力を身につけている。 <p>社会で実践する力</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 社会で自立した人間として生きていくことができるように、自分で考え、問題を発見し、解決することができる。 7. 観光産業をはじめ広く企業、自治体等で活躍できるコミュニケーション能力、社会人としてのマナーを身につけている。 8. ビジネス実務における諸活動（営業、販売管理等）を遂行するのに必要な知識と技能、ならびに自己のキャリアをデザインできる能力を身につけている。 <p>協働できる素養</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 地域社会や職場において協力して仕事ができるコミュニケーション能力、自分で考える力、プレゼンテーション能力、協調性を身につけている。 <p>忠恕の心</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/</p>

(概要)

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目で「アクティブラーニング」を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、ホスピタリティ精神を育む科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目で編成されています。

「学科科目」では、講義、演習、実習をバランスよく配置し、観光の主要テーマを理解するため、観光行動、需要、文化、地理、事業を系統的、段階的に学べるよう教育課程を編成しています。特に社会で必要とされる知識・技能の修得のため、英語、中国語、韓国語などの語学力や、旅行業務取扱管理者試験、ホテル・マネジメント技能検定、観光実務士、秘書士などの資格取得にもつながる専門技能やサービスの実務で求められる接遇マナーを身につける科目、職業上の適性・能力を培うキャリア教育科目や職業体験となるインターンシップを配置しています。実習や演習では、ホテル研修、海外語学研修、海外留学、フィールドワーク、地域文化体験、まち歩き、旅行企画、観光調査、地域・企業研究などに取り組み、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などの向上を図りながら、着実に専門性を深めていき、その学修成果を学内外で発表することのできる機会を設けています。特に短期大学における卒業論文の取り組みは特色ある試みで、2年間の学修をとおして企画力、実践力、政策立案などの能力を養うことができます。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されています。講義系科目では、教員の一方的な授業とならないよう、また学生の主体的、協働的学修により「人間力」を育成するための「アクティブラーニング」（双方向授業）を推進し、学生が自分の考えを話す機会、学生同士で意見を交換する機会等を十分に確保しています。例えば「講義」では、グループワークやディスカッション、「演習」では、英会話、航空予約、国内・海外地理、フィールドワーク、産学連携による企業研究があります。「実習」ではホテル研修、海外語学研修、海外文化研修、短期留学、インターンシッププログラムなどを行い、主体的、協働的な学修によって、社会で生きる実践力や課題解決力を身につけられるようにしています。このように、グループやペアで協力しながら課題に取り組んだり、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、学びの専門性と密接に関連する職業現場で実践力を高めていく授業、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業を展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

また、2年間の学びの集大成として、卒業研究では、観光および観光に関連する課題に

<p>取り組み、卒業論文（レポート）としてまとめて、学修の成果を発揮することができるようにしています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等） http://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/</p>
<p>（概要） 教育目的 本学科は、観光ビジネスを理解し、21世紀の観光・ツーリズムの推進を担う、ホスピタリティ・サービス精神、コミュニケーション能力、実務力を持ち、「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。</p> <p>入学者に求めるもの 本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。</p> <p>1. 関心・意欲 (1) 大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。 (2) 日本国内および世界の観光等に関心を持ち、観光産業（宿泊、旅行、運輸、ブライダル等）や関連産業（サービス・販売等）で働きたいという意欲を持っている。</p> <p>2. 知識・技能 (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。 (4) 観光に関して自らの体験や伝聞に基づく知識を身につけている。</p> <p>3. 思考・判断・表現 (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。 (6) 観光に関する体験や現象について、自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。</p>

<p>学部等名 グローバルコミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等） http://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/</p>
<p>（概要） 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、言語・音声・身体・視覚に関する表現方法と幅広い教養を修め、新しい時代を切り拓く斬新な発想力・発信力、豊かなコミュニケーション力を持ち、グローバルに活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等） http://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/</p>
<p>（概要） 2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の精神」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための特定分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むこと</p>

のできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 表現文化全般に精通し、他者と力を合わせ、互恵的な価値を共創できる専門性を備える。具体的には、以下に掲げる事項につき、一つ以上を修得する。
 - (1) 国語・日本語・日本文化についての専門的な知識・技能を身につけている。
 - (2) 英語・英会話・国際社会についての専門的な知識・技能を身につけている。
 - (3) 音声・音楽（発声法、朗読、ナレーション、オーディオドラマ等）についての専門的な知識・技能を身につけている。
 - (4) 舞台パフォーマンスを通じた身体表現についての専門的な知識・技能を身につけている。

社会で実践する力

2. 何事にも好奇心を持ち、生涯を通じて自ら主体的に学ぶことができる。
3. 変化の激しいグローバル社会を生き抜くための情報収集力・論理的分析力・発信力を身につけている。
4. 人間に対する深い理解に通じ、問題を整理・解決し、新たな価値を創造することができる。

協働できる素養

5. 確かな言語力と表現力に基づき、異なる価値観を持つ人たちと協働することができる。
6. 世の中と自己を関連づけ、広く社会や人々に対して働きかけることができる。

忠恕の心

7. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目で「アクティブラーニング」を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目から編成しています。

「学科科目」では、国語・日本語・日本文化・英語・英会話・国際社会、音声・音楽、舞台パフォーマンスに関わる多様な授業科目が用意されています。一つ以上の領域を中心に据えながら、自身の関心に沿って柔軟に学びをデザインしていくことができます。また就職・進学を支援するためのキャリアプランニングの科目も充実しています。小学校英語指導者資格や司書に関する科目も用意されており、2年間で所定の単位を修得することによって免許を取得することができます。そのほか、様々な資格取得にも積極的に挑戦できるような教育課程とサポート体制を整えています。

教育方法の特色

本学科の授業は「講義」と「演習」から構成され、全ての授業において「アクティブラーニング」を展開しています。「講義」では、教員からの一方向的な知識の伝達ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開し、知識や考える力、コミュニケーション力などを身につけられるようにしています。「演習」では、体の一部や全身を動かしながら、発音、発声、舞台パフォーマンスなどに取り組むほか、パソコンやペンタブレットを使った描画やデザインに取り組みます。また仲間と協力しながら課題に取り組む授業や、学びの専門性と密接に関連する職業現場で実践力を高めていく授業なども展開しています。学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

また、2年間の学びの集大成として、卒業研究では、国内外の文化や表現に関する課題に取り組み、卒業論文（レポート）としてまとめて、学修成果を発揮することができるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>

（概要）

教育目的

本学科では、言語・音声・身体・視覚に関する表現方法と幅広い教養を修め、新しい時代を切り拓く斬新な発想力、表現力、コミュニケーション力を持ち、グローバルに活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 言語・音声・身体・視覚に関する表現に関心を持ち、コミュニケーション力を磨いて世の中に貢献しようという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- (4) 様々な表現方法や文化について自らの体験に基づく知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる。
- (6) 多様な表現方法や文化について、自分なりの考えを持つことができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 経営会計学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/</p>
<p>（概要）</p> <p>大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/</p>
<p>（概要）</p> <p>2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとして短期大学士の学位を授与します。特に短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。</p> <p>確かな専門性</p> <p>1. ビジネス実務における諸活動（生産管理事務、営業事務、総務事務、販売、窓口業務等）を遂行するのに必要な知識（企業経営、企業会計、マーケティング、情報処理の専門知識）、簿記、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、会計ソフトを活用できる技能、銀行などの金融機関や一般企業の経理・事務処理能力を身につけている。</p> <p>社会で実践する力</p> <p>2. 経営や会計の専門的知識を活かして、現状を分析して課題を発見し、課題解決に向けたプロセスを考えることができる。</p> <p>3. 新たな物事に積極的に取り組むことができる。</p> <p>4. 失敗や課題にもめげずに、最後までやり遂げることができる。</p> <p>協働できる素養</p> <p>5. 担当する分野の先輩や後輩をはじめ、関係者との対話を通して協力して仕事に当たることができる。</p> <p>6. 所属している組織やプロジェクトチームの中で、自分の役割を理解して、その責務を果たすことができる。</p> <p>忠恕の心</p> <p>7. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）</p> <p>http://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/</p>

(概要)

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。本学卒業生には専門性の高い職業で活躍する力が求められますので、実践力を高められるように様々な実習や演習科目を展開しています。また、授業の形式を問わず全ての科目で「アクティブラーニング」を展開し、教育効果を最大限に高められるようにしています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスに、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、学修成果を客観的に測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学の教育課程は、「共通科目」、「学科科目」の2つの科目群で構成されています。

「共通科目」では、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、語学力を身につける科目、幅広い教養を身につける科目、キャリア教育を行う科目など、専門的な学びを支え、「人間力」の基礎を身につけられる科目から編成しています。

「学科科目」では、ビジネス実務に必要な経営や会計の基本的な知識・技能を修得するための科目群と、ビジネス実務における諸活動（生産管理事務、営業事務、総務事務、販売、窓口業務等）を遂行するのに必要な専門知識（企業経営、企業会計、マーケティング、情報処理の専門知識）や、簿記、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、会計ソフトを活用できる実践的スキルを修得するための科目群を配置しています。多様な演習を繰り返しながら、銀行などの金融機関や一般企業の経理・事務処理に必要な知識・技能や実践力を育成します。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、全ての授業において「アクティブラーニング」を展開しています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開し、基礎となる知識や考え方を身につけられるようにしています。

「演習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深め、学びの専門性と密接に関連する職業現場での実践力を高める授業を展開しています。さらに、学科のいずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行い、学修ポートフォリオ等を活用して、自分の成長を実感できるような授業を展開しています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や知識・技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の方法と割合、基準等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。筆記試験のほか、論文・レポート、作品、実技、口述等、各科目の特性に応じた評価方法を用いて、多角的に学修成果を測り、評価します。

また、2年間の学びの集大成として、専門演習や卒業研究では、経営や会計に関する課題に取り組み、卒業論文（レポート）としてまとめて、学修成果を発揮することができるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修の手引き等の刊行物の配布及び大阪成蹊短期大学ホームページ等）

<http://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/>

(概要)

教育目的

本学科は、ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊短期大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 会社の経営や会計、情報処理、ビジネスマナーについて、関心をもち、ビジネス実務能力を身につけ社会を支えたいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- (4) 現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えを表現することができる
- (6) 社会の出来事や問題について、自分なりの考えを持つことができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大阪成蹊短期大学ホームページ上の「大学紹介」「組織図」内で公表。
<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
グローバルコミュニケーション学科	—	3人	1人	0人	0人	0人	4人
観光学科	—	2人	1人	2人	0人	0人	5人
栄養学科	—	4人	1人	3人	0人	0人	8人
経営会計学科	—	1人	1人	1人	0人	0人	3人
幼児教育学科	—	4人	8人	11人	7人	0人	30人
調理・製菓学科	—	3人	1人	4人	0人	0人	8人
生活デザイン学科	—	3人	0人	2人	0人	0人	5人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	142人	142人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：インターネットにより公表 グローバルコミュニケーション学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/teacher/ 観光学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/teacher/ 栄養学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/teacher/ 経営会計学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/teacher/ 幼児教育学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/teacher/ 調理・製菓学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/teacher/ 生活デザイン学科： https://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/teacher/
------------------------------	---

c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)

大阪成蹊短期大学では、FD 委員会を設け、教員の資質の維持向上に努めている。委員会は、各学科の学科長及び各学科から選出した委員により構成している。なお、その他に本学では、全学的な教学改革を推進することを目的とする教学改革 FSD 会議を開催しているが (構成員：理事長・総長、学長、副学長、学科長、コース主任等の専任教員、高等教育研究所研究員及び幹部職員等)、『全学的なアクティブラーニングの指針』、『シラバスの一層の充実』、『適切な成績評価の実施』など 18 のプロジェクトを立ち上げ、教学改革を推進する中で、各プロジェクトが中心となって教員の資質を高める研修を開催している。

【令和 3 年度における FD 研修の開催状況】

下記 FD 研修はすべて全員出席としており、当日の出席がかなわなかった教員については、個別にビデオ研修を受け、報告書提出でもって出席に代えている。

(FD 研修)

- ・ 第 1 回 (令和 3 年 6 月 24 日)
「令和 3 年度における GPA の活用方針及び指導時の留意点について」
- ・ 第 2 回 (令和 3 年 7 月 27 日～8 月 31 日 (※オンデマンド))
「インターンシップにおける指導計画と留意点」
- ・ 第 3 回 (令和 3 年 7 月 29 日)
「令和 3 年度入学者選抜における面接試験の運用方法」
「令和 3 年度入学者選抜における面接評価実施にあたっての担当者説明会」
「教員の守るべきコンプライアンスについて」
- ・ 第 4 回 (令和 3 年 8 月 31 日～9 月 20 日 (※オンデマンド))
「ループリックの活用」
- ・ 第 5 回 (令和 3 年 9 月 16 日)
「専門演習・卒業研究等指導にあたっての指導計画と留意点」
「アクティブ・ラーニング型授業の実践に関するワークショップ」
「成績評価分布の変化と GPA」
- ・ 第 6 回 (令和 3 年 10 月 28 日)
「2020 年度後期 教学改善のための授業評価アンケート報告」
- ・ 第 7 回 (令和 3 年 11 月 18 日)
「配慮の必要な学生に対する対応について」
- ・ 第 8 回 (令和 3 年 12 月 16 日)
「シラバスの一層の充実」

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活デザイン学科	50人	35人	70.0%	100人	75人	75.0%	0人	0人
調理・製菓学科	100人	105人	105.0%	200人	205人	102.5%	0人	0人
栄養学科	80人	59人	73.8%	160人	136人	85.0%	0人	0人
幼児教育学科	280人	194人	68.9%	560人	407人	72.7%	0人	0人
観光学科	90人	48人	51.1%	180人	119人	66.1%	0人	0人
グローバルコミュニケーション学科	30人	20人	66.7%	60人	50人	83.3%	0人	0人
経営会計学科	50人	45人	88.0%	100人	102人	102.0%	0人	0人
合計	680人	502人	73.8%	1360人	1094人	80.4%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
グローバルコミュニケーション学科	27人 (100%)	7人 (25.9%)	20人 (74.1%)	0人 (0%)
観光学科	93人 (100%)	2人 (2.2%)	88人 (94.6%)	3人 (3.2%)
栄養学科	83人 (100%)	1人 (1.2%)	79人 (95.2%)	3人 (3.6%)
経営会計学科	48人 (100%)	3人 (6.3%)	43人 (89.6%)	2人 (4.2%)
幼児教育学科	255人 (100%)	7人 (2.7%)	244人 (95.7%)	4人 (1.6%)
調理・製菓学科	97人 (100%)	1人 (1.0%)	93人 (95.9%)	3人 (3.1%)
生活デザイン学科	48人 (100%)	2人 (4.2%)	44人 (91.6%)	2人 (4.2%)
合計	651人 (100%)	23人 (3.5%)	611人 (93.9%)	17人 (2.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p><卒業生の主な就職先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士 大阪府大阪市 保育士、大阪府茨木市 保育士、大阪府吹田市 保育士、大阪府摂津市 保育士、大阪府高槻市 保育士、大阪府豊中市 保育士、大阪府枚方市 保育士、大阪府門真市 保育士、大阪府八尾市 保育士、京都府福知山市 保育士 ほか 私立保育園多数 ・幼稚園教員 大阪府茨木市 幼稚園教員、大阪府泉佐野市 幼稚園教員、滋賀県守山市 幼稚園教員、滋賀県近江八幡市 幼稚園教員、奈良県大和高田市幼稚園教員 ほか 私立幼稚園多数 ・栄養士 				

<p>日清医療食品、エームサービス、グリーンハウス、LEOC、シップヘルスケアフード、ナリコマエンタープライズ、一富士フードサービス、社会医療法人美杉会 ほか多数</p> <p>・調理・製菓・サービス系 ロイヤルホテル、阪急阪神ホテルズ、ウェスティンホテル大阪、ザ・リッツカールトン大阪、ミリアルリゾートホテルズ、神戸ポートピアホテル、トラットリアアル・ボンピエーレ(イタリア料理)、旬彩天つちや(日本料理)、山崎製パン、WDI JAPAN、オペレーションファクトリー、叶匠寿庵、 ほか多数</p> <p>・アパレル系 アダストリア、ユナイテッドアローズ、サマンサタバサジャパンリミテッド、アーバンリサーチ、ディーゼルジャパン、パル、バロックジャパンリミテッド、ベイクルーズ、オンワード樫山、ジュングループ、ナルミヤ・インターナショナル ほか多数</p> <p>・観光系 エイチ・アイ・エス、ジェイアール東海パッセンジャーズ、ジェイアール西日本フードサービスネット、北大阪急行電鉄、関西エアポートエージェンシー、スイスポーティングジャパン、ANA 関西空港、JAL ナビア、近畿日本ツーリスト個人旅行、日本旅行リテイリング、阪急交通社、テイクアンドグヴ・ニーズ、レック ほか多数</p> <p>・金融系 三井住友銀行、京都銀行、紀陽銀行、滋賀銀行、枚方信用金庫、北おおさか信用金庫、のぞみ信用組合、大阪信用金庫、尼崎信用金庫、大同信用組合、MU センターサービス大阪(三菱東京UFJ銀行グループ) ほか多数</p> <p>・その他企業 パナソニック、京セラ、タムラ製作所、日本郵便、ネットトヨタ中央大阪、ミズノスポーツサービス、ISC ビジネスサポート、日立金属 ほか多数</p>
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数(任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
生活デザイン学科	51人 (100%)	47人 (92.2%)	1人 (2.0%)	1人 (2.0%)	2人 (3.9%)
調理・製菓学科	108人 (100%)	96人 (88.9%)	1人 (0.9%)	10人 (9.3%)	1人 (0.9%)
栄養学科	83人 (100%)	81人 (97.6%)	0人 (0%)	2人 (2.4%)	0人 (0%)
幼児教育学科	264人 (100%)	255人 (96.6%)	0人 (0%)	8人 (3.0%)	1人 (0.4%)
観光学科	95人 (100%)	90人 (94.7%)	1人 (1.1%)	3人 (3.2%)	1人 (1.1%)
グローバルコミュニケーション学科	29人 (100%)	27人 (93.1%)	0人 (0%)	2人 (6.9%)	0人 (0%)
経営会計学科	51人 (100%)	48人 (94.1%)	0人 (0%)	1人 (2.0%)	2人 (3.9%)
合計	681人 (100%)	644人 (94.6%)	3人 (0.4%)	27人 (4.0%)	7人 (1.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。

令和元(2019)年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和2(2020)年度では、90分授業から100分授業へと移行し、すべてのシラバスに対し、授業計画を改めて見直した。また、チェック機能を更に強化するため、シラバス作成の手引き最終ページにセルフチェックリストを追加した。令和3(2021)年度では、個別シラバスに関する優秀学生の意見を聴取し、学生にとって分かりやすいシラバスの特徴をまとめFD研修会で説明した。また、シラバスチェックの工程を見直し、クラウドを導入して点検状況の確認の効率性を高めた。

学生と担当教員の間で、当該科目における学習イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成できている。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとのシラバスチェック体制を充実して、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、シラバスの質の向上を図っている。

<シラバスの作成・公表時期>

- (1) 作成時期 12月～2月
- (2) 公表時期 3月

<シラバスの作成過程>

- (1) 授業担当教員はブラウザ上から学生ポータルシステムに教員アカウントでログインし、シラバス入力を行う。(～1月)
- (2) シラバスを印刷し、1次チェック担当教員へ配付。チェックリストに基づき1次チェックを実施する。(2月～)
- (3) 授業担当教員は1次チェック結果を受け取り、修正を行う。(～2月21日)
- (4) 2次チェック担当教員がブラウザ上で2次チェックを実施する。(～2月25日)

<シラバス記載項目>

①授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標 ④学外連携学修 ⑤授業方法(アクティブラーニングを促す方法について) ⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価(評価方法・割合・基準等) ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画(タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本学では、学生の学習成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するためにGPA制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA制度の目的やGPAの算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配布される成績表に単位取得数とともにGPAを表記して、フィードバックしている。

成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに、全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ルーブリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。

成績の評語、点数、グレードポイント(GP)及び評価基準は、次表のとおり定めている。

区分	成績の評語	点数	GP	評価基準
合格	秀	100点～90点	4	基準を大きく超えて優秀である
	優	89点～80点	3	基準を超えて優秀である
	良	79点～70点	2	望ましい基準に達している
	可	69点～60点	1	単位を認める最低限の基準には達している
不合格	不可	59点以下	0	基準を大きく下回る

GPAは、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。

$$GPA = \frac{\text{(当該科目の単位数} \times \text{該当学期の履修科目のGP)} \text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

短期大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっていくか」を明確に示している。また、短期大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学科別の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第32条において「共通科目12単位以上、学科科目（自由科目6単位を含む）50単位以上合計62単位以上を修得しなければならない」と定めている。2年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているかにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

概要

2年間の学修をとおして、卒業要件単位を取得し、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものと認め、短期大学士の学位を授与します。短期大学士には、専門性の高い職業で活躍するための専門分野の確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人、専門職業人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 各専門領域における確かな知識・技能、職業理解を身につけている。
3. 各専門領域における知識・技能を実践の中で発揮することができる。

社会で実践する力

4. 専門性を活かし、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
5. 豊かな発想力によって、課題の解決に向けた計画を立てることができる。（企画・立案）
6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
7. 困難な課題にも挑み、解決に向け行動することができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者との関係のなかで、学びあうためのコミュニケーション能力を有している。
 9. 目的の遂行に向けて他者と協力し、取り組むことができる。

忠恕の心

10. 他者の意見や考え方を理解するように努め、思いやりの心を持って行動することができる。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生活デザイン学科	62 単位	有・無	25 単位
	調理・製菓学科	62 単位	有・無	25 単位
	栄養学科	62 単位	有・無	25 単位
	幼児教育学科	62 単位	有・無	25 単位
	観光学科	62 単位	有・無	25 単位
	グローバルコミュニケーション 学科	62 単位	有・無	25 単位
	経営会計学科	62 単位	有・無	25 単位

GPAの活用状況 (任意記載事項)	<p>公表方法：本学では GPA 制度をより実質化するため、次の 9 項目において GPA を活用しており、学内掲示板上でも公表している。</p> <p>(1) 成績優秀者表彰 2 年生については各学科の 2 年間の通算 GPA 上位者で、他の学生の模範となる学修態度を有している者から 1 名ずつに学長賞を授与します。また 1 年生については、当該年度の GPA 上位者で、他の学生の模範となる学修態度を有している者から各学科で 2 名ずつに優秀賞、優良賞を授与します。</p> <p>(2) インターンシップ、実習等の参加要件 企業へのインターンシップや学外での実習等に参加するための要件として通算 GPA の上位 70%をその目安に設けます。ただし、各学科の特性に応じて、対象となる科目及び目安となる GPA を設けることがあります。なお、教育実習や保育実習、その他資格の取得要件となる科目には GPA の目安を設けません。</p> <p>(3) 履修単位数の上限を超えた履修 資格取得に要する科目以外で、履修単位数の上限を超えた履修を認める際の要件として、通算 GPA の上位 10%をその目安に設けます。</p> <p>(4) 成績不振者への学修指導 単位取得の有無ではなく取得単位の質を問い、成績不振者に対して、アドバイザー教員が学修状況に関する面談を行なうこととして、通算 GPA の下位 20%をその目安に設けます。</p> <p>(5) 休学・退学勧告 学修状況、出席状況、その他の生活状況を総合的に勘案し、就学意欲の著しい低下等の理由により学修の継続が困難であると判断される場合には、休学や退学を勧告することがあります。当該勧告の際に勘案する学修状況として、通算 GPA が 1.0 未満であることをその目安に設けます。</p> <p>(6) ゼミ配属 一部のゼミに希望が集中したとき等に、選抜要件の一つとして</p>
-------------------	---

	<p>GPA を考慮します。</p> <p>(7) 奨学金の推薦 奨学金の要綱に定めがある場合にはその数値に準じ、定めのない場合には通算 GPA の上位 50% を推薦の際の目安とします。</p> <p>(8) 授業料の減免 「併設高校生対象授業料減免（スカラシップ）制度」において、「授業料免除Ⅱ」に該当する学生（2 年次以降も授業料の半額を減免する学生）の 2 年次以降の減免の判定に際しては、学修状況、出席状況、その他の生活状況を総合的に勘案します。当該判定の際に勘案する学修状況として、前年度に履修した科目の GPA が上位 20% であることをその目安に設けます。</p> <p>(9) 教員採用試験等の学内推薦者の選抜 教員採用試験等の学内推薦者を選考する際に、通算 GPA の上位 30% をその目安に設けます。</p>
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	<p>公表方法：大阪成蹊短期大学ホームページ「情報公開」内の各種データにて公表。 https://tandai.osaka-seikei.jp/disclosure/</p>

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大阪成蹊短期大学ホームページ「大学紹介」「キャンパスライフ・学生支援」内にて公表。また、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表。
<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/campus/>
<https://tandai.osaka-seikei.jp/life/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	生活デザイン学科 (令和 4 年度入学生)	1,020,000 円	250,000 円	43,000 円	実習費：8,000 円 ファーストイヤーセミナー費：5,000 円 休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)
	生活デザイン学科 (令和 3 年度入学生)	1,020,000 円	-	30,000 円	休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)
	調理・製菓学科 (調理コース) (令和 4 年度入学生)	1,020,000 円	250,000 円	214,000 円	実習費：180,000 円 ファーストイヤーセミナー費：4,000 円 休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)
	調理・製菓学科 (調理コース) (令和 3 年度入学生)	1,020,000 円	-	190,000 円	実習費：160,000 円 休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)
	調理・製菓学科 (製菓コース) (令和 4 年度入学生)	1,020,000 円	250,000 円	214,000 円	実習費：180,000 円 ファーストイヤーセミナー費：4,000 円 休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)
	調理・製菓学科 (製菓コース) (令和 3 年度入学生)	1,020,000 円	-	160,000 円	実習費：130,000 円 休学中の在籍料： 年間 30,000 円(月額 2,500 円)

調理・製菓学科 (フットコर्टェイネートコース) (令和4年度入学生)	1,020,000円	250,000円	164,000円	実習費：130,000円 ファーストイヤーセミナー費：4,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
調理・製菓学科 (フットコर्टェイネートコース) (令和3年度入学生)	1,020,000円	-	190,000円	実習費：160,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
栄養学科 (令和4年度入学生)	1,020,000円	250,000円	85,000円	実習費：55,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
栄養学科 (令和3年度入学生)	1,020,000円	-	67,000円	実習費：37,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
幼児教育学科 (令和4年度入学生)	1,040,000円	250,000円	118,000円	教育充実費：30,000円 実習費：58,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
幼児教育学科 (令和3年度入学生)	1,040,000円	-	101,000円	教育充実費：30,000円 実習費：41,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
観光学科 (令和4年度入学生)	1,000,000円	250,000円	58,000円	実習費：21,000円 ファーストイヤーセミナー費：7,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
観光学科 (令和3年度入学生)	1,000,000円	-	30,000円	休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
グローバルコミュニケーション学科 (令和4年度入学生)	960,000円	250,000円	45,500円	実習費：15,500円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
グローバルコミュニケーション学科 (令和3年度入学生)	960,000円	-	38,500円	実習費：8,500円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
経営会計学科 (令和4年度入学生)	980,000円	250,000円	45,000円	実習費：9,000円 ファーストイヤーセミナー費：6,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)
経営会計学科 (令和3年度入学生)	980,000円	-	39,000円	実習費：9,000円 休学中の在籍料： 年間30,000円(月額2,500円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
1. 学生支援センター「なんでも相談窓口」の設置 多様な問題を抱え、修学に不安を感じている学生が相談しやすいよう、「なんでも相談窓口」を設けている。
2. 学生委員会の設置 短期大学における退学者縮減を主題として、様々な具体策を講じている。
3. アドバイザー制度に基づく教職員連携による学生支援 全ての学生にアドバイザー教員と学生支援課職員を配し、休学者も含めて学生一人ひとりの状況把握に努めている。教職員連携により、学生個人々人を見守りながら組織的な学生支援を実施している。
4. ポータルシステム導入による情報の共有化 毎週、全学生の授業出席状況をアドバイザー教員へ通知する等、学生情報の速やかな共有

<p>を図っている。</p> <p>5. 保護者（保証人）との連携による取り組み 欠席調査結果の変化を見ながら、多欠席傾向の学生について本人や保護者（保証人）へ連絡し、出席奨励指導を実施。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 「キャリアカウンセリング（進路・就職相談）」 各学部・学科・コース担当の就職部スタッフが進路相談、履歴書添削、面接練習など進路・就職に関するサポートを実施しており、企業や各事業所との信頼関係や卒業生の実績を活かした支援体制を構築している。また、プロのキャリアカウンセラーを配置し、就職活動全般をサポートしている。</p> <p>2. 「就活サポートプログラム」 就職活動に役立つ様々なプログラムを実施している。就職ガイダンス、応募書類作成、面接対策、グループディスカッション対策など多彩なプログラムを用意し、企業・幼稚園・保育園等の採用試験突破・内定獲得を後押ししている。</p> <p>3. 「就職WEBシステム」 大阪成蹊大学に届いた求人票を、学内はもとより自宅のパソコンからも確認できる環境を整備している。</p> <p>4. 「キャリアデザインルーム」 キャリアデザインルームは、本館1階・就職部カウンターに隣接しており、企業・保育園および幼稚園・公務員・就職参考書籍の閲覧ができる。また、求人情報をインターネット検索できるようにパソコンも配置している。</p> <p>5. 「大阪成蹊就職ガイドブック」 就職活動を乗り切るための手引書。就職活動の準備が本格化するタイミングに合わせて、1冊ずつ配布している。</p> <p>6. 「学内企業説明会」 学内企業説明会は、企業の人事・採用担当者との直接対話を通して、その企業の事業内容や職務内容を理解することを目的に、年間を通して合同および個別形式で開催している。会社説明を聞くだけでなく、学生から積極的に質問ができるように少人数制セミナー形式で実施している。毎年、様々な業界から大阪成蹊大学生を採用したいと考えている優良企業を多数招致し、内定獲得に結びつけている。</p> <p>7. 「Interview Cube」 新型コロナウイルス感染症対策として、リモートによる個別就職相談会やオンライン面接練習等を実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 学生支援センター「なんでも相談窓口」の設置 入学オリエンテーション時、学生支援体制および「なんでも相談窓口」としての機能について具体的に説明。学生支援課は、日常的に学生本人や保護者（保証人）との面談や電話相談を行い、個々の事情に応じて細やかな対応を実施。</p> <p>2. 学生相談（カウンセリング）室の設置 誰かに話を聞いてほしいときや困りごとの相談をカウンセラー（臨床心理士）がおこなっ</p>

ている。

3. 障がい学生支援室の設置

大学生活や修学に何らかの配慮や支援が必要な場合、申し出に応じて問題点をともに考え、解決策を提案。

4. 教職員（アドバイザー、学生本部）の連携による支援

学生の心身に関する異変や相談内容の記録については、学園の定める個人情報保護規則にてらして情報を共有し、カウンセラーへも報告。すみやかに対応することで事態の悪化を防止。

5. 保護者（保証人）との相互理解による支援

保護者（保証人）が安心して学生を就学させることができるよう、懸念があればすみやかに報告。

6. 保健センターの設置

保健センターでは、学生生活を健康で安全に過ごすことができるよう、健康管理や健康増進について支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ上の下記 URL で公表

1. 大学の教育研究上の目的及び第百六十五条の二第一項の規定により定める方針（卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針）に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>

2. 教育研究上の基本組織に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/organization/>

3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

生活デザイン学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/teacher/>

調理・製菓学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/teacher/>

栄養学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/teacher/>

幼児教育学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/teacher/>

観光学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/teacher/>

グローバルコミュニケーション学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/teacher/>

経営会計学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/teacher/>

4. 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/disclosure/>

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/syllabus/>

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

短期大学全体：<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>

生活デザイン学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/design/policy/>
調理・製菓学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/cooking/policy/>
栄養学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/nutrition/policy/>
幼児教育学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/infant/policy/>
観光学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/tourism/policy/>
グローバルコミュニケーション学科
：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>
経営会計学科：<https://tandai.osaka-seikei.jp/department/business/policy/>

7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/introduction/campus/>

※その他、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表

8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/disclosure/>

※情報公開ページの「学則」にて公表

9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<https://tandai.osaka-seikei.jp/life/consultation/>

大学案内、冊子「大阪成蹊キャリアサポート」の配付等にて公表

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F227310108455
学校名	大阪成蹊短期大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		254人	242人	259人
内 訳	第Ⅰ区分	147人	159人	
	第Ⅱ区分	57人	50人	
	第Ⅲ区分	50人	33人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				259人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	—
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	—
「警告」の区分に連続して該当		0人	23人
計		0人	24人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		—	0人
G P A等が下位4分の1		53人	18人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		53人	18人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。